

輝け！ しろやま

卒業に寄せて



高知県立城山高等学校 校長
藤田 優子

三年次生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。皆さんは、高校の課程を修了し、めでたく卒業の日を迎えられました。皆さんの卒業を心から祝福します。

皆さんは、本校の校訓「教養ある人たれ」のもと、学問を究め、道徳心を高め、感性を磨くべく、それぞれが目標を定め、この学舎で三年間、学業、学校行事、部活動等に全力を尽くし、充実した高校生活を送ってきました。皆さんの胸中には三年間のいろいろな思い出がよぎっていることと思います。

新型コロナウイルス感染症拡大の関係で、皆さんは、我慢の連続であったと思います。様々な学校行事や大会などが次々と中止や延期になりました。ある程度予想はしていたこととはいえ、そしてやむを得ない措置であるとはいえ、つらい現実でした。不安、不信、苦痛、いら立ちなどのマイナスの感情を抱えてしまうこともあったことでしょう。しかし、皆さんは、この

第147号

城山高校便り
編集委員会

〒781-5310
香南市赤岡町1612番地
高知県立城山高等学校
TEL 0887-55-2126
FAX 0887-55-0170

ような困難な状況だからこそ、思うようにならないことに堪えることを学び、その中で自分を生かしていくことを考えてくれました。

私が皆さんと過ごした日々は、一年間でしたが、折に触れて皆さんの頑張りややさしさ、そして真摯な態度に接してきました。

特に、体育祭では、「さすが三年次生」、皆さんの団結力は見事でした。皆さんのがんばりに下級生も引つ張られ、大いに盛り上がる体育祭となりました。

皆さんが進むこれからの社会は、変化の著しいものとなるでしょう。「十年一昔」では到底済まない、一年一年そのものが変わり続け、世にいう常識がすぐに変わってしまう、激しい変革に戸惑うことも多いと思われる。AI（人工知能）が凌駕し、人間の尊厳が脅かされることも増えるでしょう。そんな時、焦らず、慌てず、挫けずに、地に足の着いた実践を心掛けてください。本校で確実に学びを重ね、成長を遂げた経験者である皆さんは、新しい変動社会が求める人材であり、これからの社会を生き抜く実践者となってくれることと信じています。

さて、卒業に当たって、これからの未来に向かって大きく羽ばたこうとしている卒業生の皆さんに、三つのことをはなむけの言葉として贈りたいと思います。

一つ目は、「志を高くして可能性に挑戦する」

ということですが。

皆さんは本校卒業がゴールではなく、これからの人生におけるスタートラインに着いたにすぎません。これからの時代を生きていく皆さんには、自分の夢や希望をしっかりと持って、その実現に努力するとともに、社会の中での自分の役割を考え、生涯を通じて果たすべき「志」を持つてもらいたいと思います。

二つ目は、感謝の気持ちを忘れないでほしいということです。卒業を機に一人暮らしを始め、人にもいると思いますが、家族をはじめ、どれだけ多くの人に今まで支えられてきたのか実感すると思います。人間は一人で生きていくことはできません。多くの人に支えられて今の自分があるのだという謙虚な気持ちを忘れず、周囲の人々に感謝をしつつ、今度は自分が周囲の人々を支えていくのだという決意を持って人生を歩んでください。

三つ目は、城山高校の卒業生であること、その誇りをいつまでも持ち続けてほしいということです。自分の夢実現に向かって歩んだこの三年間は、皆さんにとってかけがえのないものでしょう。皆さんには、同窓生との関りをいつまでも大切に、母校を誇らしく思う気持ちを持ち続けてほしいと思います。

最後になりましたが、保護者の皆様、お子様のご卒業、誠におめでとうございます。これまで本校の教育方針、教育活動に、深いご理解と力強いご支援をいただきましたことに厚くお礼を申し上げ、お祝いの言葉とします。



祝辞

PTA会長 小松 喜世子

花々の咲きほころぶ季節、卒業生の皆様、ならびに保護者の皆様、ご卒業誠にありがとうございます。

今から三年前の四月、真新しい制服に身を包み、不安と期待に胸をふくらませて正門をくぐった事でしよう。あの日から早くも三年が過ぎようとしております。

昨年につき、コロナウイルスによって、感染予防を行いながらの学校生活に不安を感じ、一日でも早く学校行事などが以前のようにあつてほしいと思われていた事だと思えます。

学校行事では、二年次生で行くはずだった修学旅行がコロナの影響で中止になりましたが、何とか三年次生で行かせてあげられたらという思いがある中で、またもやコロナで中止の決定も、先生方にとって苦渋の決断をせざるを得なかった事と思えます。

しかし、一日ではありましたが、三年次生のホームデーでは、みんなで室戸まで足を伸ばし、有名なキンメダイ料理を堪能したと聞きました。それは地元高知の魅力を知る良い機会にもなったかと思えます。

二年次生の時に行われた文化祭も、コロナの影響で無観客となりました。外部のお客さんが来ない中でどのように学校を盛り上げるか、各ホームが知恵をしばったそうですね。

みんなで教室に見事な大木のイチヨウの木を作った憩いの場を提供したAホーム、おいしいアイスクャンディーや楽しいストラックアウトにも劣らないくらい男子の女装が見事だったBホーム、射的に人間自販機、折り紙アート、フットスポットなど多彩な催しをすべて実現させたCホーム。話に聞くだけでも文化祭が活気に

満ちていたことがわかります。

三年次生の時のスポーツ・レクリエーション大会では、借り物競争、障害物競争、学年対抗リレーといったスポーツ系から、オセロ、トラップなどの室内競技まで、一つ一つの種目に真剣に取り組んでいる姿がとても輝いていました。

三年次生は、総合成績では惜しくも二年次生に負けてしまいましたが、競技の前にはみんなが円陣を組んで声を掛け合うなど、みんなが団結して勝負を楽しむ姿は、最上級生らしい圧倒的な存在感を感じさせるものでした。

皆さんが、これから新たな道に向かっていく途上には、ずっといい事ばかりではなく、時には一人では飛び越えきれないくらいの大きな壁にぶつかってしまう事があるかもしれません。その時は周りを見て下さい。皆さんをこれまで応援し続けてきた、そしてこれから先も一緒に考え共に乗り越えてくれる保護者の方々がいつも見守っています。

また、学習面や部活動の指導、進路のサポートなど、学校生活の中で支えてくれた先生方も、皆さんのさらなる成長と活躍を楽しみにされていると思います。

皆さんは、城山高校で学んだことに自信と誇りを持ち、人との繋がりを大切にして頑張ってください。皆さんが、愛情を込めて育んで下さった保護者、関係者の方々への感謝の気持ちを忘れずに、さらに大きな人間へと成長していけることを願っています。また、城山高校の同窓生の立場として在校生をはじめ、入学してくる生徒達の成長を見守ってください。よろしくお願ひします。

最後になりますが、今日の良き日を迎えるために、三年間、親身になってご指導いただきました校長先生をはじめ、諸先生方には深く感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

私たちPTAも、在校生はもちろん、社会へ飛び立つ卒業生のことも、精一杯応援することをお約束して、お祝いの言葉とさせていただきます。

3年間の先生からメッセージ
「贈る言葉」

三年Aホーム・担任 柏木 妙

三年次生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

三Aの皆さんと、過ごした時間は、穏やかな日も、嬉しい日も悲しい日もあり、この文章を書いている今、皆さんの卒業が嬉しいような寂しいようなホッとしたような・・・いろいろな気持ちです。マラソン大会や体育祭などの行事では、皆さんが元気に楽しんでいる姿をみて一緒に楽しい気持ちになり、目標をもって、真剣に取り組む姿を見ては真剣に応援をしました。三年次生になると、就職・進学、介護職員初任者研修や施設実習など、忙しい時期にも周りと支え合い頑張っている姿がとても印象に残っています。

皆さんの高校生活はいかがでしたか？それこそ楽しい時も腹が立つときも、悲しいときもうれしい時もそれぞれにあったのではないでしょう。か。ともに喜び、ともに笑い、ともに文句をいい、ともに悲しみ、ときどき喧嘩をし、歩み寄り、仲直りをし……。この三年間は、一生のなかの一瞬の出来事かもしれません。しかし、この三年間で「学んだこと」「感じたこと」「考え

たこと」が皆さんのこれからの人生を支える土台の一部分になってくれることを心から願っています。

さて、四月からは、新しい場所での生活が始まります。「分からないことは調べたり、聞いたりする。」「みんなで何かするときは、自分にできることを探したり、聞いたりする。」「自分の考えや思い、困っていることを丁寧に伝える。」「皆さんの行動や言葉ひとつで良い方向に変わることがあると思います。これから応援しています。」

三年Bホーム・担任 安藤 葉子

卒業生の皆さん、保護者の皆様、ご卒業おめでとうございます。

一年次生では週一時間の授業で会うだけでしたが、二年次生から二Bの主任をもたせてもらいました。第一印象はにぎやか！でも、リーダーシップがとれるし、行事では活躍できそうだと感じ、楽しみなクラスだと思いました。

授業は、家庭系のクラスでしたから調理実習や被服実習、保育系の作品製作など座学よりもものをつくることが多い二年間だったと思います。調理の実技は、包丁の握り方やきゅうりの持ち方からスタートし、きゅうりも切れるようになり、四十分で二品を完成させることができました。折り紙も必死で練習し合格。卒業記念作品の壁面飾りもとても素晴らしい作品に仕上がりに、上手になったなあと思いました。

修学旅行も行けず、たくさんの制限がある中で学校生活でしたが、充実していましたか？これからはそれぞれの進路先に進むことになり、嬉しいこと、楽しいこと、悔しいこと、悲しいこと、辛いこと：いろいろな経験をする

と思います。そんな時『周りの人・ものに感謝する人』『相手の立場で考え、行動できる人』であるかを振り返ってほしいと思います。周りの人に助けてもらいながら、一步一步歩んでもらえたらと思います。

皆さんのご活躍をお祈りいたします。
ずっと応援しています！

三年Cホーム・担任 村田 絵吏

三年生の皆さん、この度はご卒業おめでとうございます。保護者の皆様にも心よりお祝い申し上げます。

卒業生の皆さん、城山高校での生活はいかがでしたか？入学当初は、一人ひとりに色々な背景があり、高校生活への不安も大きかったと思いますが、新たなスタートに立ち、自分のために頑張ろうとしている姿がとても印象的でした。とはいえ、三年間の学校生活です。対人関係の悩みや勉強、将来への不安など、決して順調な毎日ばかりではなかったでしょう。それでも色々な人の助けを借り、最後は自分の力で乗り越えてきたことに自信を持ってください。

私は、皆さんが入学の時に着任をし、共に時間を過ごしてきました。同じ学年を担当できる幸せもありましたが、私にとってこの三年間はとても長く濃い毎日でした。想いが伝わらず衝突したことも数えきれないほどあり、「今日は何事もありませんように」と祈りながら通勤したこともありました。それだけ、本気で皆さんと向き合ってきたつもりです。それだけ、真剣に心配をし、皆さんの幸せと成功を願ってきました。そういう想いだったことは知っておいてください。

最後に、ある研修で聴き、妙に納得した言葉を紹介します。『就職でも進学でも「辞めず

続けられる人」には次の共通点がある。
・大人の言うこと（指示）に素直に「はい」と言える。

・相談できる相手がいる。

この二点は、在校中に身に付けておくべき力だ。』

さあ皆さん、新たなステージへ出発です。貴重な三年間をありがとうございました。くれぐれも気をつけて、でも楽しんで、未来に向かって羽ばたいてください。

三年学年主任 横田 真一

平然と時間を過ごしていたら、お目にかかることのないであろう「壁」という言葉。オリンピックの金メダル、難関である就職口、難関である進学先、目に見えない新型ウイルスとの闘い。その他人生のいたるところに「壁」がある。その「壁を」乗り越えようとせず、他の人が達成するのを見るだけの人生は面白くない。「壁」があるからそれ乗り越えるために時間を使うようにしよう。そのために最低限必要な事は、健康な体、前向きな心、笑顔で他人と接する事。卒業生全員の未来に幸多かれ。

三年Aホーム・副担任 池川 由花

四月にAホームの副主任として暖かく迎え入れてくれたことに感謝しています。教室での挨拶の後に、「先生、緊張してなかった？」と言われたのを懐かしく思い出します。そして何より、皆さんの新たな一面を見るたびに、宝探しのよう嬉しくなったものです。

皆さんの高校生活はコロナ禍で制限されることが多く、思うようにいかなかったこともあったでしょう。だからこそ、柔軟に変化しながら

過ごすことが習慣になったのではないでしょう。自分に柔軟性を持たせることは社会に出てからも大切だと思います。

桜は春になると必ず咲くように、咲く時期は違ったとしても一人一人の人生が輝くことを心から願っています。

三年Bホーム・副担任 小松 将人

三年次生の皆さん、卒業おめでとうござい

す。

高校生活の三年間は皆さんにとってどのようなものでしたか？
楽しかった、嬉しかった、悲しかった、腹立たしかった。今までにいろいろな経験をしてきたことだと思えます。皆さんにとって、これから進む人生のほうが長いものになります。高校生活で学んだこと、経験したことは一生忘れることはないと思います。今までのことを胸に、大きく羽ばたき一回りも、二回りも大きな人間になってもらいたいと思います。また、これからは重要な選択を迫られることが何度も訪れます。その時に自分の選択に悔いがないような人生を送ってください。これからの皆様に幸多からんことを願っています。

三年Cホーム・副担任 小原 亜紀

三年次生の皆さん、卒業おめでとうござい

す。保護者の皆さま、お子様のご卒業、心よりお祝い申し上げます。
皆さんとは一年間の付き合いでした。全体的に人懐っこくて優しく、皆さんに癒されることも多かった。授業では、商業コースの五名を担当しましたが、課題に真剣に取り組む真面目さに、いつも感心していました。授業で

培った集中力は、今後色々な場面で発揮されることでしょう。

皆さんの人生はこれからが本番です。早い人で四月、その他の人もいずれは社会に出ますが、素直さと周囲への感謝の気持ちがあれば、きつと周りの人に可愛がられると思います。何事にも一生懸命取り組み、色々な試練に負けないで人生を楽しんで下さい。皆さんの更なる成長を楽しみにしています。

令和三年度卒業生の皆様へ

高知県立城山高等学校 校友会会長 北本 洋介

城山高等学校の卒業生の皆さん、晴れのご卒業おめでとうございます。また保護者の皆様、本日は誠におめでとうございます。

ご卒業される皆様は、一昨年来の世界中を脅威にさらしている「新型コロナウイルス感染」により、健康被害や経済の停滞等による日常生活が支障をきたしている中、三年間勉学に励まれまして卒業を迎えられました。又、近い将来、災害が起こると言われている「大地震・津波」「気候変動」等に十分な備えを行政とともに訓練等の参加に取り組んできました。こうした大変厳しい時代の中、皆さんは希望に満ちて社会に出て、就職して働く人、もしくは大学や専門学校に進学し、社会人を目指す人とそれぞれ進路は違います。しかし、共通するのは城山高校で学ばれた多くのことを植物が育つ際の養分のように活かして大きく伸びてほしいと願っています。一人ひとりの持つ可能性は皆さんの手に握られています。社会や進学してからその可能性を伸ばすのはたぐいまれな努力であり、そして誠意を持って物事に対処していく力であるといえます。皆さんは城山高校で学んだ精神を大

切にして進学する人・社会人になる方それぞれ歩んでください。

卒業後は社会人になるとはいえ、まだまだ立派な社会人への道は長いと思います。この城山高校には多くの先輩方が都会や地域に住んでおります。悩んだ時とか不安になった時は城山高校卒業生で組織する「城山高校校友会」「関西支部」や「関東校友会」がありますのでご相談いただけたら幸いです。卒業後、関東や関西に出られる方や住所変更のあった方は校友会本部にご連絡ください。校友会は城山高校に本部を置き、関東に「関東校友会」、関西には「関西支部」があり毎年総会や役員会、親睦会を開催しております。ここ数年「コロナ禍」により、開催を見合わせておりますが長い人生の中、先輩や同級生との交流を深めることは心豊かな人生を送るうえきつと役立つことを確信します。それではまた総会等でお会いしましょう。



生徒表彰

白石賞

三年皆勤賞

三年精勤賞

一年皆勤賞

一年精勤賞

公益財団法人全国商業高等学校協会
成績優秀者令和3年度高知県介護職員
初任者研修修了者

三次Aホーム	野川 未結
三次Aホーム	松田 若菜
三次Aホーム	佐竹 伶太
三次Aホーム	松岡 輝
三次Bホーム	横田 琉晟
三次Bホーム	竹村 正
三次Bホーム	徳吉 直樹
三次Aホーム	佐竹 伶太
三次Aホーム	松岡 輝
三次Bホーム	横田 琉晟
三次Bホーム	徳吉 直樹
三次Cホーム	中村 友哉
三次Bホーム	宮田 春樹
三次Cホーム	中村 翔真
三次Aホーム	門脇 莉央
三次Aホーム	草道 海星
三次Aホーム	佐竹 伶太
三次Aホーム	谷田 勇清
三次Aホーム	永田 真奈美
三次Aホーム	西本 大信
三次Aホーム	野川 未結
三次Aホーム	松田 若菜
三次Aホーム	森國 栄太

令和3年度進学・就職先一覧

就 職	進 学
株式会社あさの(製造スタッフ)	徳島文理大学 総合政策学部総合政策学科
社会福祉法人香南会 介護職	城西大学経営学部総合マネジメント総合学科
社会福祉法人 ふるさと自然村(介護職)	高知リハビリテーション専門職大学 作業療法学専攻
社会福祉法人守里会 介護職	高知職業能力開発短期大学 生産技術科
大三株式会社(製作用業員及び機械オペレーター)	高知職業能力開発短期大学 電子情報技術科
株式会社北村塗装店 塗装工	龍馬情報ビジネス&フード専門学校 調理師学科
株式会社サニーマート 販売・接客	龍馬情報ビジネス&フード専門学校 会計ビジネス学科
株式会社高知ヤマザキ 生産関係職	龍馬情報ビジネス&フード専門学校 ゲームクリエイター学科
東洋園芸食品株式会社 製作用業員	龍馬デザイン・ビューティ専門学校 美容総合学科
株式会社サカイ引越センター高知支社(引越スタッフ)	龍馬看護ふくし専門学校 子ども未来学科
株式会社オートボックス南日本販売南海カンパニ(店内販売スタッフ)	平成福祉専門学校 介護福祉学科
株式会社AOS 総合職	広島リゾート&スポーツ専門学校 スポーツトレーナー学科
株式会社SEG 技能職	

〔部活動報告〕

バスケットボール部

今年度は、県体、秋季大会、冬季大会、の三つの大会とリーグ戦に加えて、一チーム三人で試合を行う3×3の大会にも出場しました。3×3では、予選リーグを四チーム中二位で通過し、準々決勝まで進むことができました。準々決勝では負けてしまいましたが、県六位という結果を残すことができました。

部員は少人数ではありますが、試合で勝つことも少しずつ増えてきました。新型コロナウイルスの影響も心配される中ですが、来年度の大会に向けて練習に励んでいます。

高知県高等学校総合体育大会

一回戦 城山 21ー103 土佐

第三回3×3 U-18高知県大会

予選リーグ二位

準々決勝敗退 結果六位

高知県高等学校バスケットボール秋季選手権大会

一回戦 城山 40ー100 小津

高知県高等学校バスケットボール冬季選手権大会

一回戦 城山 49ー125 高知工業

リーグ戦(男子育成東部リーグ) 四位



【後期の行事】

●第一回生徒作品展示会

十二月二十日(月)～十二月二十八日(火)

期間中、本校南舎1F廊下で生徒作品展示会を行いました。一・二年次生の美術・書道選択者、二・三年次生の家庭・商業・福祉系列の生徒、文化部(イラストデザイン部・ビジネス研究部・写真部)がこれまでに授業や部活動で制作してきた作品やこの展示会に向けて制作した作品を展示しました。生徒たちは、普段、見ることができない各部活動の取り組みや、教科の作品を興味深く鑑賞していました。



●ホームマッチ

十二月二十四日(木)

今年度は、各学年の人数を考慮し、学年対抗で行いました。種目はバドミントン(ダブルス)、

六人制バレーボール、レクリエーション(ババ抜き・オセロ・ジエンガ)の三競技。各学年がそれぞれの分野の代表を選出し、ホームマッチに挑みました。

生徒一人一人が、自分の出場する種目に全力で取り組むだけでなく、チームの仲間を一生懸命応援する姿も多く見られました。また、準備から片付けまで、生徒会を中心に、全校生徒が一丸となって取り組むことができました。

【結果】

バドミントン 一位 三年次田村・松田ペア
二位 二年次長野・島崎ペア
バレーボール 一位 三年次Aチーム
二位 三年次Bチーム
レクリエーション
一位 三年次 柴田・徳吉・松岡チーム

●第四回防災避難訓練

一月十二日(水)

今回は、北舎一階被服室からの火災を想定した避難訓練を行いました。発煙筒に点火して煙を充満させ、避難の際に煙を吸い込まないようにタオルや服の袖で口や鼻を覆いながら逃げ、どのクラスも五分以内に避難・整列を完了しました。

そして、香南市消防署と連携のもと、クラスの代表者による消火器操作を体験し、火災発生場所を見立てた的に水消火器を当てる訓練をしました。消防隊員の方からは、火災を発見したら「火事だ!」と大きな声で周囲に知らせ、その後、風上から消火活動に当たる事が大切であると教わりました。実施後のアンケートでも、消火方法を理解できたという生徒がほとんどであったので、有意義な訓練であったと思います。



●検定合格

第六十七回ビジネス文書実務検定試験

(十一月二十八日実施)

二級合格 三年次Cホーム

三級合格 二年次Cホーム
三級(速度部門)合格
二年次Cホーム

徳吉 直樹
中村 翔真
山本 裕大
十萬 涼介
大西 元気
野村 雪翔
東村 惇生

●令和三年度課題別研究発表会 一月十九日(水)

「総合的な探究の時間」の取り組みを学年毎にまとめ、その成果を地域に発信することを目的として発表会が開催されました。感染症予防のため、本年度もリモートでの発表となり、赤岡中学校の方々もリモートでの参加をしていただきました。

一年次生の発表は、本年度から新しい取り組みとして行ったインターンシップの内容を発表しました。自衛隊への職業体験は、実際に現職自衛隊員の方が発表会に参加してくれました。

その他、一年間を通じた部活動や、福祉活動の内容も発表されました。一年間の学習活動・部活動の発表の場として今後も継続して行いたいと考えています。



生活・情報型の授業から

家庭科系列では、本年度、外部講師活用事業を利用した講習会を五回開催しました。内容は、①「製パンにおける技法」江藤 里恵氏（こもれびのばんや）、②「洋菓子における技法」



清水 明延氏（高知情報ビジネス&フード専門学校・製菓製パン学科長）、③「新聞ばっく製作」渡辺 隆明氏（しまんと新聞ばっくインストラクター）、④「箸製作」平子 真治氏（ヒラコラボ）、⑤「和菓子における技法」武市 洋三氏らによる講義及び演習です。また、高知県ものづくり名人派遣事業として、「中国料理における技法」横山 嘉之氏にもおいでいただきました。

新型コロナウイルスの感染対策に配慮をおこなったうえでの実施となりましたが、どの講座も生徒達は目を輝かせ、直接触れるプロの技に驚きと感動を見せ、大変満足した様子でした。

福祉科から

一月八日(土)に「高等学校産業教育生徒研究発表会」が開催されました。社会福祉型代表として本校三年次生の野川 未結さん、松田 若菜さんの二人が出場し、高知工科大学地域教育支援センター長賞を受賞しました。

令和三年度高知県児童生徒表彰（後期）受賞

「ボランティア部門」

「教育活動」チーム社会福祉型

野川 未結	谷田 勇清
松田 若菜	野川 未結

主な行事予定

令和3年度 学校評価アンケート

実施日：令和3年12月9日～令和4年1月11日

対象者：生徒85名（回収率92%）・保護者75名（回収率82%）・教職員18名（100%）

■ そう思う

■ ややそう思う

■ あまりそう思わない

■ そう思わない

	生徒	保護者	教職員	
質問_1 生徒（あなた・お子様）は、充実した学校生活を送っていると思いますか。				肯定的評価が過半数を占めている。昨年度と比較して生徒は17ポイント・保護者は10ポイント増加しているが教職員の評価は17ポイント減少している。質問10で選択した「社会のルールや校則の指導に力を入れる」の項目を選択していることを考えれば、これらの指導等に大半の時間を費やしているため減少したと考えられる。
質問_2 学校は分かりやすい授業（基礎学力の定着や実力の向上につながる授業）に努めていると思いますか。				全ての対象で高評価である。保護者は13ポイント、教職員は6ポイント増加した。これは教職員が日々ユニバーサルデザイン化した授業が進んでおり、教職員の自信につながっていると思われる。しかしながら生徒の評価は昨年度より1.8ポイント減少したことを考えると生徒の基礎学力定着のためにさらに研鑽を積む必要がある。
質問_3 本校は、生徒に人権を尊重する意識・感覚を育てようとしていると思いますか。				肯定的評価が過半数を超えている。昨年度と比較して生徒は4.7ポイント、保護者から肯定的評価は20.3ポイント増加した。しかしながら質問10で「いじめ・暴力行為を許さない学校づくり」への要望が高いことを考えると、安心・安全な学校生活を送るための指導や支援体制のさらなる充実が求められることがわかる。
質問_4 本校は、就職・進学など、生徒一人ひとりの希望に応じた進路指導ができていると思いますか。				肯定的評価が過半数を占めている。昨年度と比較したとき、教職員は同評価であるが生徒は5.2ポイント、保護者は18.6ポイント増加した。今後も3年次生に対する計画的な進路指導、2年次生の進路意識醸成、1年次生の進路指導など、細やかな指導・支援をさらに推進の必要があろう。
質問_5 生徒は、自分たちのクラスで楽しく過ごせていると思いますか。				肯定的評価が過半数を占めている。昨年度と比較したとき、生徒は10.8ポイント、保護者は18.6ポイント、教職員は51.6ポイント増加した。生徒の人間関係調整について支援・指導することが多いが生徒たちは「楽しく過ごせている」と考えていることが推察される。
質問_6 生徒や保護者からの連絡・相談について、本校は適切に対応していると思いますか。				全体的に肯定的評価が過半数を占めている。昨年度と比較した場合は生徒は2.9ポイント、保護者が18.6ポイント、教職員は5ポイント増加している。質問4と同様に今後も細やかな進路指導や生活指導等が必要であろう。
質問_7 本校は基本的な生活習慣（生徒の態度、服装、挨拶など）を身に付けられるよう適切な指導を行っていると思いますか。				全体的に肯定的評価が過半数を占めている。昨年度と比較すると肯定的評価は生徒は2.1ポイント、保護者は8ポイント増加しているが、11.2ポイント減少している。服装等外から見える乱れ等は目立ち、遅刻・欠席など基本的な生活習慣が心配される点の現れではないだろうか。
質問_8 生徒の学校内での生活態度は良いと思いますか。				質問中、保護者・教職員からの肯定的評価が一番低い。生活態度が「とても良い」とは言えない状態であろう。生徒からの評価も全体的には昨年度と同評価ではあるが否定的な意見も多い。教職員からは質問10で「社会のルールや校則の指導に力を入れる」の要求評価が高いあらわれてあろう。
質問_9 本校は、生徒の意見や要望を取り入れた学校づくりをしていると思いますか。				昨年度と比較すると、保護者・生徒からの肯定的評価は増加している。どうやったら城山高等学校が安心・安全な学校になるかということを生徒自ら考え発信できる仕掛けづくりを来年度設定できたら良いと思われる。
質問_10 次の項目のうち、これから特に学校が力を入れる必要があると思う項目を3つまで選んで答えてください。				昨年度と比較した場合、保護者や生徒からは「就職・進学」に力を入れてほしいという要望が上位にある。多様な生徒が社会の形成者として自立することを考えれば本校の根幹を要望されるものと考えられる。教職員にとっては「社会のルールや校則」に力を入れたいと考えており、校内ルール等の遵守に多くの労力がかかっている状態がわかる。また保護者の要望1位となっている「いじめや暴力行為を許さない学校づくり」を進めていくためには生徒の意見・そして保護者の意見も取り入れながら協働した学校づくりを推進していく必要がある。